

事業所名 日だまりハウス
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成17年11月 9日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A: 現職 生活指導員
資格・経験 介護支援専門員、ヘルパー2級、社会福祉主事、訪問介護員
B: 現職 元介護支援専門員
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

東北の山間地に位置し、農家と隣接した穏やかな南斜面ののどかな田園地帯にある。周囲にある車の通りの少ない農道や、田んぼのあぜ道は最適な散歩コースである。また、コンビニ、理美容店、郵便局がすぐ近くにあり日常生活にも便利である。

周りを畑に囲まれた広い敷地内にハウスは建てられており、オレンジを基調とした木造の建物は、全体として温かい雰囲気を感じられる。日当たりのよい掃きだしの食堂、リビングからは菜園の様子が目で見渡せ、眼を転じればたわわに実をつけた柿の木、お花畑などが眺められる。

皆で稲刈りをした新米や周りの畑で採れた野菜、近くの川で取ってきたしじみなど、ふんだんに日々の食材に取り入れながら自給自足に近い生活スタイルを大切に、自然と共にある生活を楽しんでいる。

近くには協力提携をしている診療所、歯科もあり、いつでも気軽に対応してくれる。また、市内の総合病院とも提携し、ゆったりとした中にも安心したホーム生活が送れる環境が整っている。

地域とのお付き合いは長く強い。ホームの納涼祭などには近隣の人々が和気あいあいと集い、にぎやかなイベントも繰り広げられている。また、中学生の職場体験学習にも場所を提供し、若い世代とのささやかな交流もけられている。

ホームは開放的で明るく、入居者は自由に庭や畑に出て散歩ができるようになっており、自由な暮らしを具現化している。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

家庭的で自然に即した生活を毎日過ごすことを目標にしており、形式的で堅苦しくない自由なスタイルは評価出来る。ホームの記録類を少し整備されると、より一層合理的な介護が実施でき、質の向上につながると思われる。

介護計画については、度々訪問される家族の意見要望を体系的に汲み上げるシステムを強化し職員間で協議をすれば、入居者、家族の方に今以上に喜ばれる介護ができ、家族との太い関係が生まれると思われる。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>「入居者が主役」を介護の理念としている。生活の継続性を大切にし、共同生活・共同作業の中にも個々の能力が発揮できるようにしている。</p> <p>玄関の小さな段差に椅子を置くなど細かな配慮がしており、自然で自由な生活の中にも安全性を重視し、安心して暮らせることを目指している。</p> <p>どの入口も施錠せず、近くの皆さんが立ち寄りやすくしている。お茶を飲んでもらうなど、近所付き合いを大切にし、開かれたグループホームを目指している。</p> <p>「共に生活し共に喜ぶ」を目的として、職員は入居者の喜びは何かを考え、介護や共同作業にも活かすようにしている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>入居者をホームの主役とし、決まったスケジュールを設けず、ゆったりと自由に毎日過ごすようにしている。外に置いているベンチや椅子、室内の畳コーナーなど、入居者がその時の気分で過ごせる空間が作られている。</p> <p>ホームに閉じこもらないようにするため、その時の話題や会話の中から入居者の希望を取り入れている。勝山の雑祭りや温泉に出かけるなど、頻繁に外出し、気分を明るくして潤いのあるホーム生活を送れるようにしている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>その人その人の能力経験を把握して、農作業・毛糸編み・雑巾縫い等、作品が完成しなくても、自由に手がけてもらうようにしている。職員も一緒に作業し共に寄り添う生活をするようにしている。</p> <p>個人記録の管理は事務所の棚に鍵を掛けて保管してある。</p> <p>本人の個性を大切に、出来ること、したくないことを尊重し、本人が積極的に取り組める場合は、バックアップし思い込みには否定せず接している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日々から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>食材は、入居者が栽培収穫した有機無農薬野菜を使い、食の安全と自然の美味しさを活かすようにしている。</p> <p>ケース会議・職員会議で現在の問題・課題を常に見直している。他のグループホームの職員と交流し、相互評価により、お互いの長所・課題を研究し合い、介護サービスの質の向上に努力している。</p> <p>問題発生やヒヤリハットの事例が起こった時は、直ちにケース会議を開き、ありのままの状況を報告している。率直な感想を述べ、改善策を検討し、周知徹底している。</p>		